

新生活の

はじまり

下市町立下市中学校・教諭

吉田 有希

■ 社会に出て

大学を卒業し社会人になってもう一年が過ぎました。この一年は、今まで生きてきた中で一番変化のあった日々でした。

自分の周りの状況がすべて変わり、新しい環境に慣れるために、泣いたり、迷ったり、笑ったりと本当に忙しい一年でした。

同じ奈良県内とはいえ、実家のある生駒市の北の果てから、吉野郡の下市町には通えませんでした。生まれて初めて、独り暮らしをしています。寂しくて、自分が今までどれだけ家族に守られてぬくぬくと生きていたのか身にしみました。

■ 夢だった教師生活

下市中学校は素晴らしい所です。世間知らずで新米教師の私に対し、他の先生方はとても親切で、仕事内容を細やかに教えて下さったり、ハリキリすぎて突っ走りそうになる私をなだめて下さったり、さりげなく手助けをして下さったり……。そして何よりも毎日楽しそうに笑



英語部の生徒たちと(むかって左端が筆者)

顔を見せてくれる生徒たちの存在は私にとって大きなものです。揺れる年頃にある彼らは毎日必死に悩み、いだち、時には荒れながら一生懸命に生きています。そんな彼らに私はたくさんのかを教えてもらいました。今を精一杯楽しむこと。たくさん笑ってた

くさん悔しがること。自分の気持ちに正直に生きること。私はまだ彼らに何も与えられていません。これから精進を重ねて彼らと一緒に悩み、学びながら下市中学校での生活を楽しんで行こうと思っています。

れ ・ こ れ

子どもたちと

共に学ぶ

奈良県立盲学校教諭

笹本 舞

■ 願いを叶えて

「障害を持つ子どもたちの教育に携わりたい」という夢が叶い、昨年四月から盲学校で働いています。

私は高等部普通科1年生2名の担任。授業は普通科2年と専攻科1年の国語と、わかすぎ学級を担当しています。

子どもたちが旅立つ日まで、何をすべきなのか、初めて自分が負った責任の重さを痛感し、昨年一年間は焦る日々が続きました。

「初めに子どももありき、やで」という同僚の先生の言葉が私の胸にしみ、子どもの目線に立つことから始めました。

■ 一緒に学ぶ

点字や単眼鏡の使用、歩行訓練などの自立活動や、興味・関心を持てるような授業の工夫など、子どもたちが学習する横で、私自身が子どもたちに支えられ、多くを学びました。文化祭で出す三部作の舞台の稽古では、子どもたちと一緒に葛藤しました。



文化祭、中等部・高等部全員による音楽劇での記念写真 (むかって左端が筆者)

「できへんねん!」「おぼえられへん!」と口々に弱音をまく子どもたち。だけど、くじけずに練習を重ね、乗り越えようとする子どもたち。中等部・高等部が一体となって頑張ったからこそ、あの当日の笑顔があったのだと思います。

「先生、やった!」と感動して泣きながら笑ってくれた生徒を見て、子どもとともに学び、悩む大切さ、素晴らしさを胸に刻みました。

まだまだ視覚障害については勉強が必要ですが、持ち前の元気で、これからも子どもたちとともに学び続けて行きます。

社会人となつて

クラボウ株式会社
エレクトロニクス事業部

久保 典孝

今

社会人となり一年が過ぎました。私は今、クラボウの非繊維分野で赤外線を扱った技術職をしています。

社会人となり一番変化したことは、考え方です。それは一般によく言われる責任という言葉が社会ではついてまわるからかもしれません。

仕事において、私の判断がそのまま反映されることがわすかですがあり



サンプルをテストしている様子

ます。利益を追求する企業という場所で私の判断が反映されることは、仕事の大小に関わらず本当にこの判断で正しいのか不安になることもあるのです。そのような中から変化が現れたのだと思います。

学生時代

振り返るとインターンシップの前身であつた松下電器における就職体験、島津製作所見学、北京大学(中国)での異文化体験等、何かチャンスがあるたびに参加し、私の経験となるよう努めていた学生時代だったような気がします。

特別なことだけではなく、講義の発表の時等には努力を惜しまず、できる限りのことはしていたと思います。そして全て私にとってはとても貴重な体験となりました。とにかく前に進もう、何かを吸収しようという態度を心がけていたのです。

共通するもの

これからも私は「常に一歩前へ」を心に持ち、がんばっていこうと思います。この原稿依頼を受けたのもそんな気持ちからです。学生のみならず何も何か自分で心に決めた、揺るがない気持ちを持って、過ぎ去った後にも納得できる貴重な学生生活を送って下さい。

あ ・ と ・ ひ



研修最後 同期と（前列向かって左から4番目が筆者）

変わる自分を みつめて

鳥居薬品株式会社
東京支店
橋本 多恵

今の私

私は「鳥居薬品」という製薬会社のMR（医薬情報担当者）です。簡単にいうと薬の営業マン（ウーマン）です。昨年四月から半年間は研修で、ひとり外まわりをはじめたのは昨年十月からでした。担当は東京都品川区で、開業医訪問をしています。

なぜこの道を

よくある質問は、「教育学部なのに

どうしてMRなの？」です。

私自身、教師を目指して入学しました。しかし四年という歳月の中で、気持ちが変わるのは当然です。その時、見過ごさずに自分と向き合い、受け入れて下さい。

私はさまざまな人と接したいな、医療に興味があるな、資格を持って、私しかできないことをしたいな……と思い、たどり着いたのがMRだったので。

これから、今から

MRといっても、今の私は給料の三分の一も働いていない未熟者です。その分、吸収すること、学ぶことは人一倍多いです。

自分から動けば動くほど、仕事は増えていき、しかしすべて消化するだけの力はないので、毎日が本当に嵐のようです。それでも人との会話に助けられ、何とか立っている私がいいます。誉められても怒られても「人は人に支えられていく」そんな基本を思い出させてくれます。

もし気持ちが動き、いつかMR職を離れる時が来ても、今の私が、今までの私に支えられているように、MRの私が、未来の私を支えるでしょう。

人は変わります。自分が変わっていないと思っています。そんな自分と向き合い、今の自分を精一杯見つめて、楽しんで下さい。